

市史講座第9回ミニレポート

12月7日(土)第8回の講座が開かれました。

第1部：「出雲地方の地震」(講師:放送大学鳥取学習センター所長 西田良平 先生)



西田先生は史料(古記録・典籍・古文書等)に書かれた被害状況を見て古い地震の実態を解析する方法から講義を始められました。まず史料を読み込み、震央(地震の場所)、規模(マグニチュード:Mと記載される)、発生時間を推測します。

史料に記載された地震記録から年月日が分ります。その年月日と同じ地震記録が、他の史料にも記載されていることを探すことも重要です。史料が多ければ多いだけ、解析の要件が多く、情報が緻密化するのです。

地震の震源は、震央と深さであらわしますが、史料からは深さが分かりませんので、震央分布を作成します。地震の被害は震央に近いほど大被害となり、遠くになれば被害は少なくなります。この

地震動の事が史料に記録されれば、その史料から地震による死者・倒壊などの被害状況を「震度」にして震度分布を求め、被害の一番大きい場所を、その時発生した地震の一番の震央(震源)とします。

地震の規模はマグニチュード(M)で表現します。大地震は有感度の範囲や被害の規模が大きく、小地震は小さいことから、史料の記載によってその震度分布を出します。

例えばA村で家屋倒壊など被害が大きい場合Mを5、B村では被害が少ない場合Mを4~5、C村で揺れのみであればMを3~2、D村ではA村ほどでなく被害が多い場合Mを4~5と震度推測します。それらを地図上に図式化し、各村の確定した震度分布を見ていくと、震央が特定されます。

さらに現代の地質調査もこれら史料と重ね、重要な古地震確定の要素になると話されました。伝承的に伝わる大地震の実態が判明することもあります。

その例として、大宝の地震(701年5月12日)では、若狭湾に島が埋没したと伝わっていますが、海底調査からその痕跡はなく、大地震ではなく局地的な地震であったとされました。同じく石見国で発生した万寿地震(1026年6月16日)も、大地震で高津沖の鴨島が水没したと伝えられますが、鴨島遺跡調査として実施された海底調査で、鴨島の水没は確定されませんでした。

出雲国での大地震として、『三代實録』、『類聚国史』に元慶4年10月14日(880年11月23日)、神社仏閣官舎百姓廬が倒壊し損傷者があったと記され、その後も微振動が止まなかったと記録されています。この地震の震央は宍道湖西方の出雲平野付近とされていましたが、地震被害の神社仏閣に出雲大社や鰐淵寺等の名がなく、記録もありません。この同日に京都でも有感され史料に載っていますが時刻が分らず、京都での局地的地震の可能性もありますが、現在は250km遠方の京都でのこの日の地震がM4であるとされていますから、同日の出雲地震の震央は国府付近の大草地域であり、M7クラスであったとする説が有力との話をされました。

第2部：「松江市近辺の民具の保存状況」(講師：島根県立古代出雲歴史博物館交流・普及グループ課長 浅沼政志 先生)

浅沼先生は、冒頭に「民俗学」について話されました。文字になっていない庶民生活を知る学問が民俗学で、一方「民族学」は世界の民について研究する学問であり、字をよく混同されるが別の学問形態であると話されました。

そして民俗学のなかの「民具」はアチックミュージアム(屋根裏の博物館)設立者の渋沢敬三が昭和8年(1933)頃に提唱した造語ですが、学術用語として使用されています。定義は「我々同胞が日常生活の必要から技術的に造り出した身近卑近の道具」です。その中でも「自製民具」は素人の



手作りしたもの、「流通民具」は専門職人作成によるものですが、その中にも在来の民具と、新民具と言われる、機械による大量生産の物とに区分されています。

そして、民具は 10 項目に分類され次のようになっています。

1.衣食住

(1)衣（服物、結髪・化粧道具、裁縫・選択用具）

(2)食（食料、貯蔵用具、炊事用具、調理・調製具、保存・加工用具、醸造・製造用具、嗜好品用具、食品、飲食器）

(3)住（屋敷構え、住居、付属建物、家具・調度、寝具、建築習俗用具、防護用具）

2.生産・生業

(1)農耕（2）山樵（3）漁撈（4）狩猟（5）養蚕（6）畜産（養鶏含む）（7）染め・織 手工（藁・竹・板細工）

(8)諸職（大工・左官・屋根屋・鍛冶屋・桶屋・木地師・たたら・陶工・漆工等）

3.交通・運輸・通信

(1)交通・運搬施設（2）運搬具（3）車・舟・そり類（4）交通・旅行用具（5）交通施設・用具

4.交易

(1)交易施設、商業用具（2）計算・計量具（3）鑑札・看板・広告類（4）証書・手形・藩札類（5）印章・絵符類

5.社会生活

(1)共同施設（2）共有道具（3）防災・避難用具（4）警防・刑罰用具（5）家じるし・印判類（6）贈答・社交用具

6.信仰

(1)聖地・祠堂（2）神体・偶像類（3）神事・法会用具（4）神札・護符類（5）奉納・祈願品類（6）縁起物類（7）信仰関係服装・用具（8）憑霊関係用具

7.民俗知識

(1)教育施設・用具 (2)医療・衛生施設 (3)薬品・医療・保健具 (4)ト占・まじない用具 (5)暦・時計用具 (6)規矩・準縄類

8.民俗芸能・娯楽・遊戯等

(1)芸能・娯楽施設 (2)衣装・道具類 (3)楽器類 (4)仮面・仮装類 (5)人形 (6)雑芸用具 (7)競技用具 (8)娯楽・遊戯具・玩具

9.人の一生(通過儀礼)

(1)生育等施設 (2)妊娠・出産 (3)生児儀礼用具 (4)育児用具 (5)七五三・成人祝い用具 (6)婚礼用具 (7)婚姻関係用具

(8)厄年・年祝い用具 (9)葬送用具 (10)忌明け・年祭用具 (11)喪屋・霊屋・墓等

10.年中行事

(1)正月行事 (2)節分 (3)ひな祭り (4)五月節句 (5)盆行事 等

以上の分類を説明されつつ、松江市内にある島根歴史民俗資料館(日本海を生業の場とする漁撈関係民具が多数)、宍道町菟古館(宍道湖の漁撈と来待石加工に関する民具多数)、八雲郷土文化保存伝習施設(山村生活の衣食住はじめ生活民具全般と山樵など山間部の職種に関する民具多数)の代表的な民具を、上記分類に合わせてパワーポイントを使って説明されました。写真を見ながらの説明で、みなさん懐かしく、また新鮮な思いで聞かれたようです。